

Title	カント国家及法律哲学と論理形式主義経済学 (其三)
Sub Title	
Author	福田, 徳三
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1918
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.12, No.2 (1918. 2) ,p.233(77)- 242(86)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19180200-0077

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

に記して縫殿助方に届出づべし。然る上は縫殿助方にて帳面に記入し、帳面と届書とに押切印を加へ、届書は之を返付し、且規定の印料を徴すべく、右押切印の書状無くば出訴に及ぶとも受理せざるべし。其の他は前年十月令の如く、縫殿助の調停不調の旨、同人より町奉行所に届出あらば、調達切手の分は速に印形の町人に返濟を命じ、尙返濟に及ばずんば、其の藏屋敷に濟方を命ずべしと。而して之と同時に廻着米高及び拂米掛札入札等は往時の如く一ヶ月限り町奉行所に届出づべしと藏屋敷に達し、又米仲買が規定の印料を見込み、下直に入札するならんとは諸家の憂慮する所なれば、かかる舉動あらしむべからずと、米方年行司に注意を加へたり。

是より縫殿助の米切手改仕法は繼續すること僅かに二年、天明六年十一月に至り、幕府は「差障の筋有之」といへる極めて簡單なる理由の下に、同人の米切手改兼帶役を免じ、大阪にては翌年正月右の旨を三郷町中に令したり。

カント國家及法律哲學と論理形式主義經濟學 (其三)

福田 徳 三

(七)

カントが『道德形而上學』と名くるものは、一方に於ては『自然形而上學』に對し他方に於ては『道德物理學』に對するものとす。

『自然形而上學』も『道德形而上學』も共に純粹先天的に妥當なる理性法則の體系なり、唯だ前者は自然界に就ての體系にして後者は自由界に就ての體系なるを以て異なる點とす。次に等しく道德を論ずる學問の中、『道德物理學』は道德の起源、意義及作用と經驗的に與へられたる人間の生活に於ける客觀的道德とに關する理論にして、『道德形而上學』は之と異りて、經驗的、生活的、寸毫も顧慮する所なく、純粹先天的に妥當なる形式を討究する一體系なり。純粹悟性法則が經驗の特殊的内容に對しては絶對的に無關係にして、一切の可能なる經驗に對して先天的に妥當なるが

如く、道德形而上學の法則も實際の人間生活と其特殊的内容とに對し全く無頓着にして、生活内容が如何なるものなりとも全く一樣に一切の理性存在に對する理性法則として先天的に妥當なりとす。否カントは更らに一步を進めて謂らく、純粹悟性法則に就ては、其の客觀的妥當性を得るには經驗の確認を要す、然らざれば空虚なる思惟形式たるに止まる可し、然るに道德法則の妥當性に就ては其法則が實際に於て遵守せらるゝや否やは全然關係する所なし、道德法則は「ザイン」を定むるものに非ず「ゾレン」を定むるものなり、「ザイン」が一切悉く異なる道を辿るとも「ゾレン」の法則は毫も爲に其妥當性を失ふことなしと。されば道德法則なるものは實際を左右するや否やの如きは毫も問ふ可き所に非ず、自由の行動たる道德意思は決して經驗的實際に於ける動力と認む可きものにあらず。乃ち「道德形而上學」は實際に起る所の一切の事柄と何等交渉する所なきものにして、經驗的事實として、人間生活と其歴史とは全然無關係のものたり、是れ「道德形而上學」の「道德物理學」と相分つ所以なりとす。「道德物理學」は歴史的、生活の經驗的事實としての道德の理論的研究なり。人間も一の經驗的生物としては自然に屬するものにして、此意

味にての人間を研究するものは廣き意味に於ける自然科学に屬す。カントは千七百七十五年著の『人間種族論』、千七百八十五年著の『人種なる概念の決定』の二書に於て此種の研究を試みたり。社會的存在としての人間の研究も亦此種に屬し、教育學、政治學の如く一定の生活範圍を研究するもの亦た然り。此等は何れも技術的研究にして之を一括して「道德物理學」と爲す可きものなり。

『道德形而上學』は全く之に異り事實如何なりや、was geschieht は全く之を問題とせず、如何に爲さざる可からざるか was geschehen soll のみを問題とす。此學は自由界に對して法則を立つるものにして、全然自然界の外に在り、理智の世界 intelligible Welt のみに存す。道德法則を遵守することは自由意思の理智的行爲に外ならざるが故に決して經驗的實際に於て觀察し得可き事實に屬せざるものとす。吾人の認識に訴ふる實際人間の行爲は凡て現象界に屬し、因果律に従つて構成す可きものなり。事實として疑ふ可からざるは無條件的の「ゾレン」絶對命令を下す所の法則の意識是れのみ。此の意識は、人間行爲の作用及び目的を含むこと一も之れなく、又た行爲可能の刺戟と條件とを保有せず。唯だ、一切の行爲を定めざる可からざ

る所の一の普遍的法則の形式を有するのみ。此の普遍法則こそ技術的學問ならざる真正の哲學實際哲學の唯一の對象たる可きものなり。其然らざるものは實際的學問の名を冒すと雖も實は一種の技術たるに過ぎざるものなり。カント乃ち曰く、

Es herrscht ein grosser und selbst der Behandlungsart der Wissenschaft sehr nachteiliger Missverstand in Ausehung dessen, was man für praktisch in einer solchen Bedeutung zu halten habe, dass es darum zu einer *praktischen Philosophie* gezogen zu werden verdiente. Man hat Staatsklugheit und *Staatswirtschaft*, Haushaltungsregeln, ingleichen die des Umfanges, Vorschriften zum Wohlbefinden und Diätetik, sowohl der Seele als des Körpers, (warum nicht gar alle Gewerbe und Künste?). zur praktischen Philosophie zählen zu können geglaubt, weil sie doch insgesamt einen Inbegriff praktischer Sätze enthalten. Allein praktische Sätze sind zwar der Vorstellungsart, darum aber nicht dem Inhalte nach von der theoretischen, welche die Möglichkeit der Dinge und ihre Bestimmungen enthalten, unterschieden, sondern nur die allein welche die Freiheit unter Gesetzen betrachten. Die übrigen insgesamt sind nichts weiter, als die Theorie von dem, was zur Natur der Dinge gehört, nur auf die

Art, wie sie von uns nach einem Princip erzeugt werden können, angewandt, d. e. die Möglichkeit derselben, durch eine willkürliche Handlung, (die ebensowohl zu den Naturursachen gehört,) vorgestellt.....

Praktische Sätze also, die dem Inhalte nach blos die Möglichkeit eines vorgestellten Objects (durch willkürliche Handlung) betreffen, sind nur Anwendungen einer vollständigen theoretischen Erkenntnis und können keinen besonderen Theil einer Wissenschaft ausmachen.....

....Alle übrigen Sätze der Ausübung an welche Wissenschaft sie sich auch immer anschliessen mögen, können, wenn man etwa Zweideutigkeit besorgt, statt praktischer, technische Sätze heissen.—Ueber Philosophie überhaupt zur Einleitung in die Kritik der Urteilskraft. 1794.

Kants sämtliche Werke. Ed.Hartenstein. 1868. Bd. VI. SS. 375-8. マイン版に於ては此書取録を引けり。

斯くてカントの『道徳形而上學』なるものは實際の道徳經驗に於て與へられたる道徳とは全く因縁なきものたるを知る可し。されば直ちに之れを取りて以て吾人居家處世の規範と爲す可きものにあらず唯だ理性生物たるものに向つての意思

決定の法則たる可きものなり。苦しみ樂しみ憂ひ喜ぶ所の活きたる人間とは没交渉のものなり、其血管に熱き血の流れ、其心臓に激しき鼓動を感ずる所の我等に取りては天上の星に均しきものたるなり。Handle so, dass du auch wollen kannst, dass deine Maxime ein allgemeines Gesetz werden soll; handle nur nach derjenigen Maxime, durch die du zugleich wollen kannst, dass sie ein allgemeines Gesetz werde とは理性存在に向つて論理的に法則的に行動せよと命ずるものにして、現實に生きて働き働きて食ふ我等に取りての道德を教ゆるものにはあらず。我等の生活の内容の如何なるものたるを問はず、我等の意思の現實の内容如何に拘らず、唯だ形式の上に於て理性生物として法則に従へよと云ふに外ならざるなり。パウレンの言を藉れば、シナイの山にモーゼに現はれて雲の上より命を下したる神の十誡なり。唯だ彼に於てエホバの神たるもの此に在りては理性と稱する理智界の雲間に存在するものたるを異れりとするのみ。書目(九)三 百十七頁 生れて父あり母あり長じて妻あり子あり出で、は心身を勞して若干の賃錢か俸給かを得入つては物價の騰貴に苦み、病妻の扶養足らず、嬰兒の哺乳に事缺く所の我等の實際的經驗的生活内容に對しては全く何

等の關係を有せざるものたり。人道を呼號し正義を標榜しつゝ、鐵と金の輸出を拒み兒童の小學入學を却け、終には自國民以外の者の入國を拒絶せんとする米國と、親善の關係依然として渝らずと傲して屢、空世辭を交換せざる可からざる我等日本人の經驗的生活事實の如きとは何等の交渉を有せざるものたり。左右田博士サンヂカリズムを評するにゾムバルトを引いて曰く「此くの如き理論はたゞ überfeinerte の頭腦によつてのみ考へ出されることである。……凡て平凡なる通俗主義常識主義、素町人主義に反感を有する藝術家肌の感じを持つ人々の考である。毛織物に對して絹を喜ぶ raffinement を解する人の理論である。サンヂカリズムを思想の體系として考へ出すと云ふことは社會理論家中 Cournots の業である」『經濟哲學の略 問題』第一八頁 ……又た曰く、「吾等は此のサンヂカリズムの主張に聽き翻つてニイチエの Uebermensch を思ひ更に巴里に數多きロダンの彫刻に思ひ沈むとき(中略)吾等は之等の文明史上の重要に於ても思想に於ても全く異なつた人々の間に於て、猶ほ何等かの一貫したる共通の慾求を發見し得ないか。凡ての理智上論理上、及び之によつて基礎づけられたる社會上の諸々の制約を離れて、自由に原始的なる

且單純なる或物を捕捉せんとするの希求は明に觀取することを得ないであらうか』^{同上}「一概にサンヂカリズムは佛國勞働者の弱點の宣言である(ブレンタノ)と見るより以外に又此の如き方面よりの觀點あらざるなきかを問ふは蓋し無用の業ではあるまいと思ふ」^{同上}「三頁」と。サンヂカリズムに對して斯く同情ある言を發する博士がカントの形式理性先天道德の論に慕進し、内容の與へられ經驗的に制約せられたる生存權論を一下に排斥せらるゝことは其處に『何等かの一貫したる共通の慾求』を認む可きにあらざるか。サンヂカリズムが gourmets の業たるが如く、論理形式主義經濟學も亦た通俗主義、常識主義、素町人主義に反感を懷くこと深刻なる *überfeineter Kopf* の産物なるにはあらざるか。『やは肌の熱き血しほに觸れも見て淋しからずや道を説く君』と歌へりと博士の云ふ女詩人は或は端的に我等を教ふる所あるやも計られず。

然り然りと雖も左右田博士がサンヂカリズムに對する諒解はカントに在つては唯だ其の道德哲學の理論に就て妥當なるのみ。彼の道德觀其のもの否彼が其根本主張を『道德形而上學』其ものゝ實物に就て詳述する所而して殊に國家法律哲學を細説する所に就ては全然別種の趣を呈するなり。カントの『道德形而上學』は決して其の純粹理性先天論を一貫するものに非ず、彼は實際にパンと肉とを食ひつゝ生存する地上の人間其ものゝ理性的、并に感性的生活に就て經驗的制約を隨處に許容したり。實際の人間の立つる目的を考慮の中に多く取り入れたる。完全と幸福とを目的の下に認めたり。斯くて彼の『道德形而上學』は彼の所謂眞正の學問を含む部分は甚だ貧弱なるものとなれり。シナイの山に於てモーゼに十誡を與へたるエホバは婚姻の宴に葡萄酒を醸造して衆を樂しましめ、マガダラのマリヤと胸襟を開いて相語り弱き女性の線言に同情の涙を濺ぎ、之を妬める妬者人を斥けたる基督となりて現はれたり。カントの道德哲學が時人の心に訴ふる所ありしは其純粹理性先天的『ゾレン』の故にあらず、馬具師の子として、*Einbürger* の家に生れ自己の勤勉と克己とによりて大學教授の職を贏ち得たるセルフ・メード・マンたるカント其人の終生堅く守つて渝へざりし嚴格なる道德觀が世界の *Einigkeit* たりし當時の獨逸人が最も深く共鳴し得る所たりしが爲なり。左右田博士が此の内容の制約を蛇蝎視し、彼の純粹理性先天的『ゾレン』のみを經濟學と社會政策

の上に於て一氣に樹立せんとせらるゝ所以は、即ち予が『彼等の問題とする所は常に社會の上位に立ち特惠の地位に在り富と權力とを其手に握る所の高等種族の人生觀にして下層多數者の世界人生に對する思想の如きは全く問題たらざるに非ずや……今日までの哲學者は極めて僅少の取除の外は自ら或は悟らずと雖も特惠階級、富權階級の天地を以つて哲學の天地と看做しつゝあり。社會政策が如何に力を盡して其中より自家の根柢を得んと勉むるも終に失望に終ることは當然なり。』『金井教授記念最近社會政策』第四百四十六―七頁と云ひたる所以たらずんばあらず。

(附言) ハルテンシュタイン版本掲出の『哲學の一切に就て』なる文は、カント自筆文の全部にあらず、ベツクの改竄したる所に係る。故にアカデミー版に於ては近來ロストックに於て發見せられたるカント自筆の全文をカント『自筆遺文集』に收録す可き筈なる由デルタイ氏の總序に見へたりと雖も、其部分は未だ上梓せられず、故に本文に於ては、不得止ベツクの改竄文を引きたり。諒焉。

經濟原理四分法の辨(下)

三邊 金 藏

四

四分法論者の見地が目的觀的見地に外ならざるは、以上述ぶるところに依りて略ぼ明瞭なるべしとして、次に然らば、此見地よりすれば、四分法は、何故其自らを正當視せしむるに足る一系の論理的根據を有すと主張し得るや。此問に對する解答は、生産、交換、分配、消費の各論下に於て、主として論せらるゝ所は如何なる事項にして、而して其が此處に論せらるゝは、又た如何なる理由に基くものなりやを明かにすれば、自から求め得らる可きが故に、以下順を追ふて、試みに此點に關する私見を開陳せんに、先づ第一に生産論の下に於て論せらるゝは、所謂生産の三要素たる土地、資本、勞力の供給増加と、是等三要素の結合より成る所謂經營の大小比較論とにして、而して前者の中土地に關しては、其面積上の増加は殆んど問題たらず、問題